

## 関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2025～2026年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「自利利他 自らを研鑽し

社会に貢献するロータリー」

例会日：毎週木曜日 18時30分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会長：吉田 和也

副会長：高井 良祐

幹事：森 敬

会報：古田 育則

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL (0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

前例会の記録 第 2208回

2026年 4月 1日

「3RC 合同花見例会」

場所 緑風荘

担当 会長・幹事・親睦活動

本日のプログラム 第 2209回例会 2026年4月16日

### 「C.Aクラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー報告」

担当：次期会長・幹事

ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱・・・③

\*会長あいさつ 吉田 和也 会長



本日のプログラムは、次期会長・幹事の担当でクラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー/地区研修協議会の報告です。ご参加されたみなさまはお疲れ様でございました。この後の報告、時間はしっかりとお使いいた

だいで構いませんので宜しくお願いいたします。

この研修は、4月11日の土曜日羽島の不二羽島文化センターにて行われました。詳しいことは後ほどみなさまがお話されますので、私が参加した分科会のことについて少しお話させていただきますと、会員増強基盤強化と青少年育成が、当日私が出席すべき分科会で、私は関商工のインターアクトのこともありますので、青少年育成の分科会の方に出席いたしました。みなさまご存知の通りかと思いますが、「インターアクトとはロータリークラブにより提唱された12歳から18歳までの中学生・高校生のための「超我の奉仕」を学び友達と一緒に楽しみながら、奉仕の精神と国際感覚を養う、社会奉仕クラブ

です。」となっております。私共のクラブも、森林整備例会、長良川環境保全例会、台湾景文高校交流事業などで、奉仕の精神、国際感覚を養う活動をさせていただいております。またインターアクト年次大会やインターアクトグループ協議会にも参加して、今年度の年次大会は一泊で伊勢まで、また、協議会は高山までバスで行って参加させていただきました。

余談ですが、先日テレビを見ていたら、東農高校は今年 108 人ほどの新入学生があったようですが、そのうちの日本人は 31 人で残りの 77 人は外国にルーツがある生徒だそうです。校長先生も入学式では、さまざまな言語を話す保護者に英語やポルトガル語、タガログ語で挨拶をされたようで、まさに多文化共生が実現している学校だと思いました。もちろん近隣の自動車関連工場などで働く外国籍住民が多い地域性特性もございますが、私ども建設業界でも外国人労働者も多く、この先日本もますますグローバル化していく世の中になる中、このインターアクトクラブの奉仕の精神と国際感覚を養う活動は、非常に良い事業だと思えます。

しかしながら、このインターアクトクラブの事業は予算が大変かかってしまうのも現実で、この先のクラブ運営において、みなさまと一緒によく考えて、議論していかなければならない事業だと思えます。

それでは、今日は発表者の方に、目一杯お話をさせていただきたいと思えますので、本日の会長挨拶はこれで終わらせていただきたいと思います。

\*本日のプログラム 担当:次期会長・幹事

「C.A クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー報告」



栗山 守 会員

私が参加したのは、ロータリー財団および奉仕プロジェクトの合同分科会です。

なお、入会してまだ 1 年ほどのため、十分理解しきれていない部分もありますが、印象に残った点を中心にお話しさせていただきます。

まず、奉仕プロジェクトについてです。

奉仕には、国際奉仕、社会奉仕、青少年奉仕、の 3 つの分野があります。今年度の重点項目については、資料の 16 ページに記載されていますが、大きく 4 つの重点項目が示されていました。まず国際奉仕についてです。現在、地区ではいくつかの事業を展開しており、それらの事業への協力を各クラブにもお願いしたいという話がありました。また今年度は、活動の活性化のための実態調査を行うとのことで、クラブとしても協力してほしいという依頼がありました。次に社会奉仕です。地区のプロジェクト、いわゆる DCS について説明がありました。(正式名称は私も把握できておらず、申し訳ありません)現在、会員一人あたり 400 円を拠出しており、地区全体で約 3000 人とのことで、合計約 120 万円の資金になるそうです。この資金については、各クラブが事業を行う際に、費用の半額補助として活用できる仕組みです。昨年度は 17 クラブが申請し、そのうち 16 クラブが承認され、2 件が国際奉仕関連の事業だったとのことです。今後は、特に国際奉仕活動をさらに活性化していきたい、という方針が示されていました次に青少年奉仕です。県内の子ども食堂に関する報告があり、従来とは異なる「スポンサー型」の子ども食堂の取り組みも行われているとのことでした。また、子ども食堂に関わっている会員について調査を行い、9 月 12 日に関係者による情報交換会を開催する予定とのことです。それに向けた調査協力の依頼もありました。

最後に、私の感想です。今回の話を聞いて、各分野でさまざまな取り組みが行われていること、またクラブとして活用できる制度もあることが分かりました。特に補助金などは、規模は大きくないものの、活用の仕方によっては有効だと感じました。

今後、クラブとしてどのように関わっていくか、考えていく必要があると感じました。



浅野 典之 会員

私は来期、職業奉仕委員長を務めさせていただく予定ですので、職業奉仕委員会の分科会に出席いたしました。私も入会してまだ 1 年ほどで、「職業奉仕とは何か」ということを

正直よく分かっておりませんでした。今回の研修で少し理解できましたので、私なりに学んだことを報告させていただきます。まず、私は市役所職員として 38 年間勤務してまいりました。公務員というのは、法律や条例に基づき、市民全体の福祉向上を目指す職業であり、組織に仕え、責任を果たす立場で仕事をしてきました。その中で、行政サービスの提供や政策の実施を通じて社会に貢献する、いわゆる「奉職」という形になります。一方で、ロータリーにおける職業奉仕は、同じように「世のため人のため」という点では共通していますが、大きな違いは、組織への責任ではなく、個人の職業を通じた社会貢献であるという点だと学びました。つまり、利益だけを追求するのではなく、自分の仕事を通じて社会にどのように貢献するか、その姿勢や理念が職業奉仕であると理解しました。そのためには、仕事を通じて社会に貢献しようとする内面的な意識や、高い倫理観を持つことが重要であると学びました。そして、自分の職業そのものが、社会に奉仕する機会である。これが職業奉仕の本質であると感じました。では、現在の私の立場、議員活動の中で何が職業奉仕になるのかを考えたときに、4つの点を意識していきたいと思いました。1つ目は、声なき声を拾うことです。制度から漏れている方や、表に出てこない市民の声を出发点に、行政の都合だけで進められていないかをチェックすることです。2つ目は、市民目線での政策チェックです。公平性と実効性が保たれているか、一部の利益になっていないかを常に意識することです。3つ目は、市民全体の利益を考慮することです。特定の人や団体ではなく、全体の利益になっているかを判断基準にすることです。4つ目は、自分の利益と距離を置くことです。支援者への便宜供与や、特定地域・業界への偏りを抑え、公正な立場で判断することです。これらを自分の職業奉仕の理念として、今後の活動に活かしていきたいと考えております



藤村 勇太 会員

公共イメージ委員会・会員基盤委員会・新クラブ推進委員会の合同分科会について報告いたします。まず公共イメージ委員会では、地区ホームページの統一や、Facebook

グループによる情報共有、各クラブの活動取材と広報について説明がありました。印象に残ったのは、「通常の活動そのものが公共イメージになる」という考え方です。その上で、活動をいかに外部へ発信していくかが重要であり、SNS や新聞などを活用した情報発信が求められているとのことでした。なお、新聞記事の扱いについて注意点がありません。新聞を撮影して SNS に掲載することは著作権上問題があるため、必ず元記事の引用や出典を明記する必要があるとのこと。次に会員基盤についてですが、昨年度は、会員数は増加している一方で退会者も多く、純増には至っていない状況とのことでした。

目標としては、各クラブ 1 名の純増、合計 73 名の増員を掲げているものの、具体策については各クラブに委ねられており、多くのクラブが会員増強に苦労している印象を受けました。最後に新クラブ推進委員会では、初のオンライン専用クラブである、三重岐阜 E テラスロータリークラブの設立について説明がありました。新しい形のクラブとして、今後どのように活動し、どのように繋がりを広げていくのか、非常に興味深く感じました。全体を通して感じたことは、公共イメージの向上が会員増強にもつながり、新しいクラブの形も含めて、ロータリーの在り方が変化してきているという点です。今後、それらの活動がどのように見える形で発信されていくのか、注目していきたいと思いました。



森 敬 会員

すみません、正直に申し上げます、今日は何も用意してきておりません。というのも、この日かなりハードでして、もともと私は自動車の修理販売をしておりますが、新聞販売店もやっております、当日は朝 1 時に起き

て、6時半まで配達、その後 9 時から岐阜で会議、終わってすぐ戻ってきて、今度は運転手として皆さんを乗せて会場へ向かいました。正直、睡眠時間 2 時間でして、かなり眠い状態での参加となりました。それで最初に思ったのが、「クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー」という名前です。もともと「地区研修協議会」だったと思

うのですが、なぜこんなにややこしい名前にするのかと。日本人なので、日本語でいいのではないかと、正直思いました。同じように PELS プレジデント・エレクトラーニングセミナーも、次期会長研修でいいのではないかと感じました。このあたりは、少し違和感を持ちました。さて内容ですが、最初のセッションでは、ガバナーエレクトの河合伸泰さんのお話がありました。2019 年入会でまだ7年目ということで、比較的若い経歴でガバナーを務められるというのは、非常にすごいことだと感じました。また、地区の役員の方も同じ同業者ですが、1年間仕事を休んで専念されるとのことで、大変な役割だと感じました。その後、分科会に分かれまして、私は会長・幹事のグループに参加しました。ただ正直に言うと、あまり内容は覚えていないのですが、1905 年、アメリカ・シカゴで弁護士のパール・ハリスによって創設され、日本には1920年に導入され、すでに100年以上の歴史があります。ロータリーの創設についてのお話がありました。そう考えると、100年以上続いている日本のロータリーが、すべて海外のやり方に合わせる必要があるのか、という点については、少し考える余地があるのではないかと感じました。また、職業奉仕についてもお話がありました。ロータリーは、もともと職業人の集まりであり、そこから社会奉仕につながっていく団体です。この職業奉仕の考え方は、もっと大切にしていけばいいのではないかと感じました。最後に全体としての感想ですが、名称や進め方については多少違和感もありましたが、改めてロータリーの原点や考え方を見直す機会にはなったと感じています。



土屋 敏幸 会員

私は会長エレクトという立場で、第一セッション会長エレクト・AG・CC 会議に参加いたしました。この会議では、中西康裕ガバナーノミニニーがお話されました。現在62歳、若い方です。

RC 歴は22年。祖父の時から学校法人伊勢学園の理事長だそうです。青山学院大学時代には、アナウンス研究会に所属しており、人前で上手に話せるようになるため、加入したの事。お話は確かに上手でした。

今までの三大セミナーは、すべてラーニングセミナーに移行する。次世代のリーダーへ、持続可能なロータリーにしたい。ロータリークラブとは、奉仕する人を育てる団体。「入りて学び、出て奉仕せよ」哲学の実践・親睦・奉仕・自己研鑽・人格の陶冶・人生の道場。1年先は米(穀物)・10年先は柿(樹木)・百年先は人。百年先を想う人は人を育てなさい。

リーダーに必要なものは？伝える事＝「言語化」会長はスピーチで勝負する。百倍以上情報を集めて、一部を話す。ウケたいと思うと失言が生まれる。注意せよ。リーダーはメンバーにどう動くべきか明確にしてあげる事。このような内容だったと思います。

第2セッションは、戦略計画・ラーニング・職業奉仕の分科会に出席しました。最初に高橋パストガバナーが RI の現状と戦略計画の必要性をテーマに話されました。ロータリーの歴史・役割・概要・戦略計画。RI は上意下達(半強制的な指導体制)クラブの自治権に反しているのでは？と相変わらずの意見を話しておられました。RI のビジョン声明4つの戦略的優先事項をお話させました。

①ロータリアン～ロータリーの成長②ポリオ根絶③会員増強。④クラブと会員の質と量の向上(戦略計画のテーマ)次に、北川由幸ラーニング委員長のお話、トレーニングからラーニングへ。情報・知識の吸収、話し合い。MY ROTARY の活用(研修)進行であるファシリテーターは、後方支援に徹する。最後に田辺紀彦職業奉仕委員長のお話で、職業奉仕とは、シェルドンの職業奉仕、ロータリー運動は、倫理運動。職業奉仕の本質、四つのテスト(曲業倫理の実践、職業奉仕論(奉仕の理念)ここでも、「入りて学び、出て奉仕せよ」でした。

石原 妙生 会員

当日は森君の運転によりマイクロバスで会場へ向かい、車中ではアルコールは無しでしたが、他愛もない話の1時間を過ごしました。会場では、案内看板が少なく、それに変則的な平面計画の建物で、会場内での移動に苦労しました。さて内容については、3つ感じたことをお話しします。まず1つ目は、ババロラ RI 会長のスピーチの中で、「ロータリーでの機会を逃さないで下さい。沢山のひとと知り合い、友情を育みましょう、温かい言葉が思いもよらない所へ皆様を導くでしょう」という言葉が印象的でした。2つ目は河合ガバナーエレクトの地区活動

方針の中で、会員増強についてこのように書かれています。「多様性を尊重した会員の入会促進」、「居心地の良い魅力あるクラブづくり」です。我がクラブの課題でもあるので、この2点をクラブ内で実施に向けて取り組んでいかなければいけないと思います。最後に3つ目は、中西ガバナーノミニーが今回のラーニングセミナーはインプットなので、今日勉強したことは各クラブでアウトプットして、それぞれの実になるようにして頂きたいと言われました。我がクラブは全員の報告があるので正にこれを実践できます。きっと身になると思います。



川上 勉 会員

私はロータリー財団の分科会について報告させていただきます。まず、全体としてはロータリー財団の積極的な活用と、寄付への理解を深めてほしいという内容でした。具体的には、地区補助金の活用による

活動の活性化年次基金への寄付(1人あたり150ドル以上) ポリオプラスへの寄付(1人あたり30ドル以上) クラブとしての寄付目標(1000ドル以上) グローバル補助金の活用促進といった話がありました。ただ正直に申し上げますと、本人たちは本当にわかっているのかな?と思いました。あまり頭に入ってこなかったというのが本音です。私自身も含めてですが、もう少し分かりやすく説明していただくとありがたいと感じました。そこで改めて、自分でロータリー財団について調べてみました。ロータリー財団は、ロータリアンが人々の健康状態を改善し、教育の向上、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界の理解・親善・平和を実現することだそうです。また寄付についてですが、財団募金年次基金150ドルを地区に収めるより、撤収した金額を地域のためにクラブ内で活用した方が良いのではないと感じました。そんなことよりも、一番感動したのは、2年くらい前に、岐阜中RCの故金正司さんが、ポリオプラス募金及び、ポリオ絶滅啓蒙のため、日本一周をして、募金活動をしていた話です。世界中の子どもをポリオ(小児麻痺)から、1人でも救いたいという気持ちが、言葉が詰まるくらい気持ちを込めて話をしていたのには、

非常に感動いたしました。

ポリオプラスとは、ポリオワクチンと併せ、はしか、ジフテリア、結核、破傷風、百日せきなどの予防も同時に行う事です。ポリオの症例は、全世界の99.9%と減少していますが、アフガニスタン、パキスタンの2か国は野生型ポリオウィルスが存在しているそうです。パキスタンでは、宗教的な理由などによりワクチン接種が進まない地域もあり、完全な根絶にはまだ課題があるとのことでした。

\*出席委員会

会員数26名、本日の出席14名です。

\*ニコボックス委員会

14イントのご投函ありがとうございました。

\*その他の委員会報告

\*幹事報告

<次例会の案内>

第2210回 4月23日(木)

卓話

「上之保ふれあいまちづくり推進委員会

について」

担当:会場監督